

Rodeo Drive - ロデオドライバー (2003)

メディア 映画

ジャンル サスペンス 犯罪 コメディ

製作国 日本

色彩 Color

時間 87分

初公開日 2003/06/14

公開情報 ケイエスエス

【キャッチコピー】

何が何でも振り落トセ！

【解説】

家出娘と大金を巡って様々な思惑が入り乱れていくクライム・サスペンス。家出したヤクザの娘を探す冴えない探偵が、不幸にもチンピラやヤク中、取り立て屋などキレた連中に次々遭遇、やがて事態は誰にも收拾不可能な状況になっていく様をスピード感たっぷりに描く。本作が劇場映画デビューとなる加納周典監督は、写真家・加納典明の長男でこれまでインディー界で活躍してきた期待の新鋭。

しがた探偵ミノルはある日、家出したヤクザの親分の娘カナの捜索を依頼された。ミノルは勝手に用心棒としてついてきたハラダと共に間もなくカナを見つけ出す。だが、凶暴なカナの暴力に逆上したハラダは彼女を気絶させてしまう。慌てたミノルはカナをそのまま車に乗せ逃亡する。カナの友人でどこかピントのズレたナツキは彼女を救い出そうと車で後を追う。一方、ミノルたちは仕方なくハラダのチンピラ仲間ヤク中のケンのところへ逃げ込む。ところが、そんなケンのもとには凶悪な取り立て屋のボス、トミーが迫っていた…。

せっかくならもう少しプロットの組み立てをタイトに作り込むべきではなかったか、と欲張りなことを思ってしまうほど、低予算ながら、それを感じさせないしっかりとした画づくりと、これだけの実力派俳優を揃えて見事にまとめあげた加納監督の演出力は今後に十分期待を抱かせてくれる。まずは痛快なデビューといえよう。

【クレジット】

| | | |
|---------|---------|-----|
| 監督 | 加納周典 | |
| 製作 | 仁平幸男 | |
| プロデューサー | 服巻泰三 | |
| | 酒井啓行 | |
| 脚本 | いわみやすひろ | |
| 撮影 | 新妻宏昭 | |
| | 加納周典 | |
| 美術 | 遠藤光男 | |
| 編集 | 加納周典 | |
| 音楽 | 山崎哲也 | |
| 照明 | 内原真也 | |
| 録音 | 高橋義照 | |
| 助監督 | 石田和彦 | |
| 出演 | 佐伯太輔 | ミノル |
| | 北村一輝 | ケン |
| | 松田賢二 | ハラダ |

| | |
|------|--------|
| 中村優子 | カナ |
| 清水あき | ナツキ |
| 松重豊 | トミー |
| 正木蒼二 | サエキ |
| 中丸新将 | ヤクザの親分 |
| 木内美穂 | |
| なすび | |